

私たちの町の遺跡

二本木発掘物語

■第8話「中世の国府」

明治時代に県が設置される以前、日本は「〇〇国」といった多くの国からなっていました。熊本県は肥後国です。そして、この各国の政治の中心地が国府です。現在の県庁のような感じですね。

第4話でも述べましたが、肥後国府の場所は時代によって移ったと考えられていて、いつどこにあったのかは色々な説があります。しかし中世については二本木にあったという見解で一致しています。中世というのは、概ね平安時代後期から戦国時代のことです。元々、文献や地名などの研究から中世の二本木国府が想定されてきましたが、近年増加した二本木遺跡の発掘調査成果からもこれが肯定できるようになってきました。その理由は、第一に出土する遺物の豊かさです。二本木遺跡では外国の陶磁器などの希少品が多量にみつかるなど、遺物の質と量が際立っています。様々な文物が多く集まってくる特殊な場所だったのです。さらに、高い身分の人が多く集まって「饗宴」を行なったと考えられる跡も見つかっています。在地の人や都から来た人など、国府の多くの官吏達が集って飲食を共にしたのでしょう。ただし、中世の国府の跡そのものはまだ見つかっていません。きっと今後の発掘調査で明らかにされていくことでしょう。

熊本市文化振興課 三好栄太郎氏

饗宴の後に捨てられた
多量の皿・碗



饗宴（きょうえん）とは
客をもてなすための宴会
だモン

